

# 生徒・保護者・教職員アンケート結果

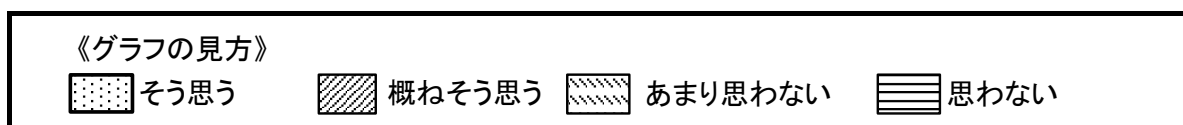
令和4年2月25日

練馬区立開進第二中学校

## 令和3年度 よりよい学校づくりを目指して

保護者の皆様におかれましては、日頃から学校に対してご理解やご協力をいただき感謝申し上げます。

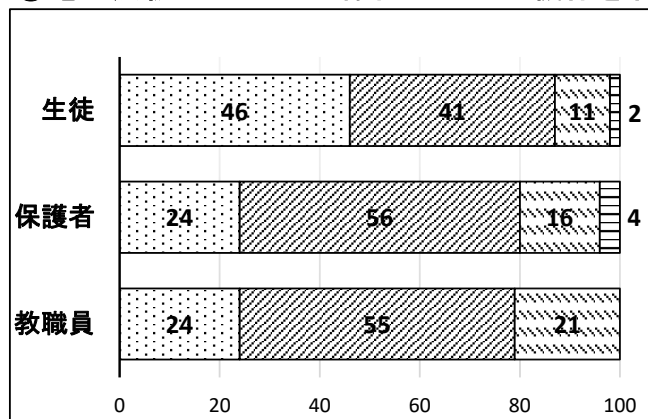
さて、令和3年12月にお問い合わせいたしました、学校評価アンケートには、多くの皆様からご回答をいただきありがとうございました。集計結果を以下のようにまとめましたので、ご覧ください。皆様からいただいた貴重なご意見を参考にして、令和4年度の教育活動を進めてまいりたいと思います。なお、設問によって「分からない」の回答や未記入などがある場合は、合計が100%にならないとともに、1-④の設問では、左から3時間以上、2時間以上、1時間以上、30分以上、未記入の場合は30分未満がそれぞれ該当しますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



アンケート回答数 生徒:389名(88%) 保護者:270名(65%) 教職員:29名(100%)

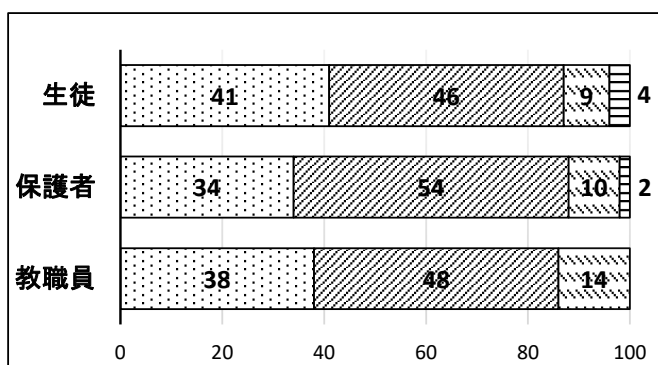
### 1. 学習指導について

#### ①電子黒板やタブレット端末などのICT機器を活用して、楽しく分かりやすい授業が行われている。



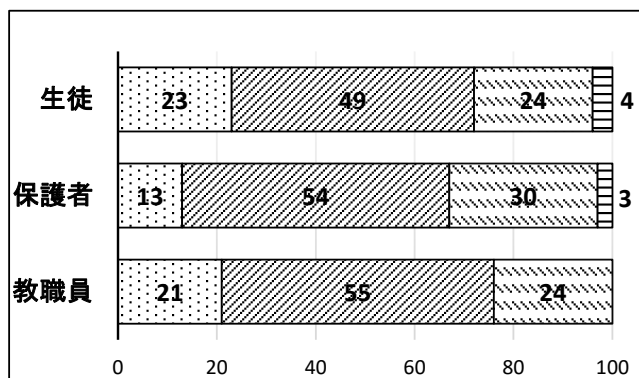
生徒の87%、保護者の80%、教職員の79%が肯定的な評価をしていました。特に、授業では、調べ学習や意見交流などの場面で多くの教員が活用するようになりました。なお、タブレット端末の活用率が、教科によって差が出てきているので、次年度に向けて、この差を縮めるために、学習形態を、「学びのイノベーション事業（文部科学省）」に示されている、一斉学習、個別学習、協働学習に類別し、教科ごとに指導内容に応じた最適な学習形態を明確にした上で、授業での活用率を一層高めてまいります。

#### ②感染対策をした上で、考えたり話し合ったりする場面が授業に位置付けられている。



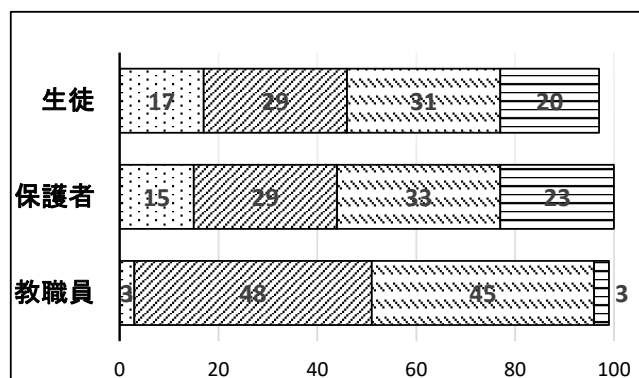
生徒の87%、保護者の88%、教職員の86%が肯定的な評価をしていました。また令和3年度の全国学力・学習状況調査で、本校における教科の平均正答率が国語で70.0%（東京都：67.0%、全国：64.6%）、数学で63.0%（東京都：60.0%、全国：57.2%）となり、いずれも東京都及び全国よりも高い結果を得ることができました。これまで取り組んできた、「主体的・対話的で深い学び」と「協力的、参加的、体験的な学習」を融合させた授業研究の成果が見られる結果となりました。

③別の教科の内容にも関連付けながら、何のために学習するのかを意識させた授業が行われている。



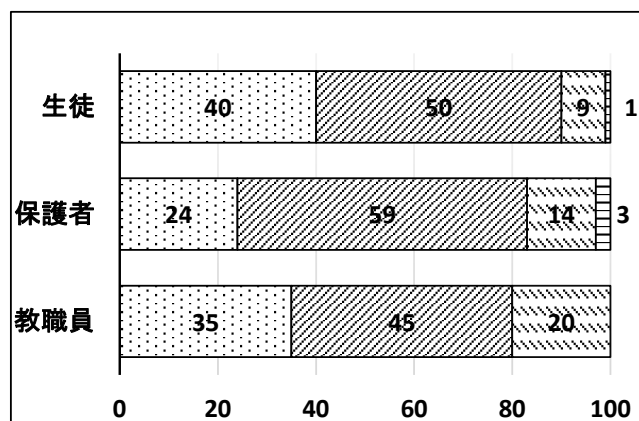
生徒の72%、保護者の67%、教職員の76%が肯定的な評価をしていました。今年度から、新学習指導要領の趣旨を実現するために、カリキュラム・マネジメントの視点に立った教科等横断的な教育活動についての研究を進めてきましたが、今回の結果から次年度に向けて一層研究を進めていく必要があると思われました。特に、各教科間の学びだけでなく、各教科・領域の学びと人権教育やキャリア教育とをつなげることを意識した教育活動を一層進めてまいります。

④地域未来塾、家庭、塾などで、自ら主体的に学習する毎日の平均時間は以下のとおりである。



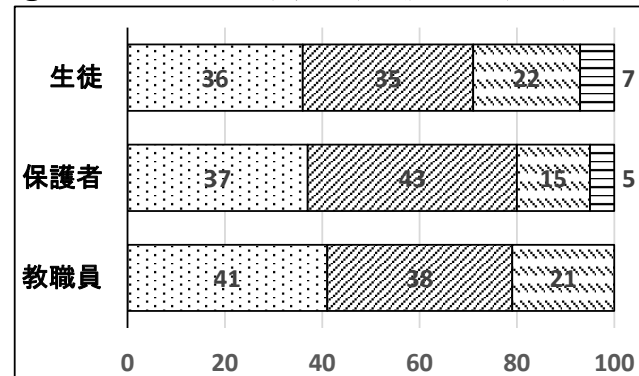
生徒の「自ら主体的に学習する毎日の平均時間」は、3時間以上が17%、2時間以上が29%、1時間以上が31%、30分以上が20%、30分未満が3%となりました。また、令和3年度全国学力・学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的な評価の割合が、本校：61.4%、東京都：62.6%、全国：63.5%となり、東京都及び全国よりも低くなりました。前年度に比べ主体的に学習に取り組む生徒は増えてきましたが、学習時間が少ない生徒に対する支援を一層充実させていきたいと考えます。

⑤新しい評価の観点に基づいた適正な学習評価が行われている。



今年度から学習指導要領が変わり、それに伴い評価の観点も変わったため、信頼性や妥当性があり、かつ、生徒や保護者に説明責任を果たせる評価・評定を行うよう、これまで職員会議や研修会を通して指導してきました。その結果、生徒の90%、保護者の83%が肯定的な評価をしており、生徒や保護者から一定の理解を得ることができたと思います。しかし、今年度から新たな観点になった「主体的に学習に取り組む態度」の評価についてはさらに研修を行い、より精度を高めていく必要があると考えます。

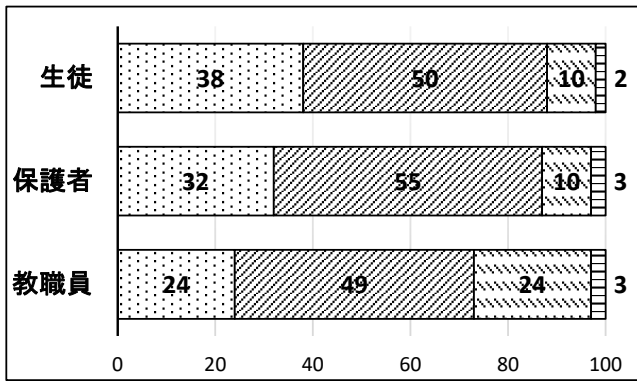
⑥タブレット端末を、授業、家庭学習、学校との連絡などで活用している。



生徒の71%、保護者の80%、教職員の79%が肯定的な評価をしていました。1年間をとおして、授業での活用とともに、オンライン授業やタブレット端末を活用した学校評価などの調査も実施できるようになりました。特に、今年度は、タブレット端末の活用を組織的に推進する上で、情報教育推進委員会の役割が大きかったと言えます。しかし、まだまだ伸びしろはあると思いますので、次年度に向け、タブレット端末を活用した教育活動を一層推進していきたいと考えます。

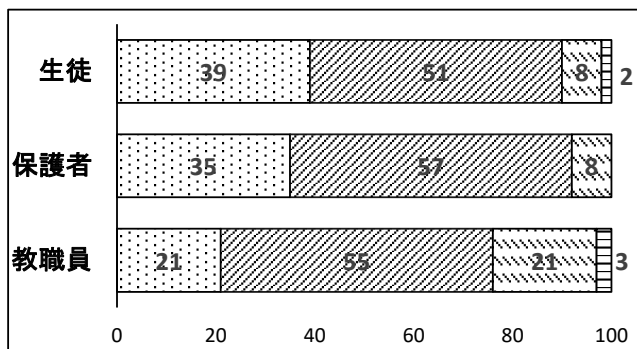
## 2. 人権教育について

### ①生徒は「思いやり宣言」を理解し、「居場所づくり」と「きずなづくり」につながる学校生活を送っている。



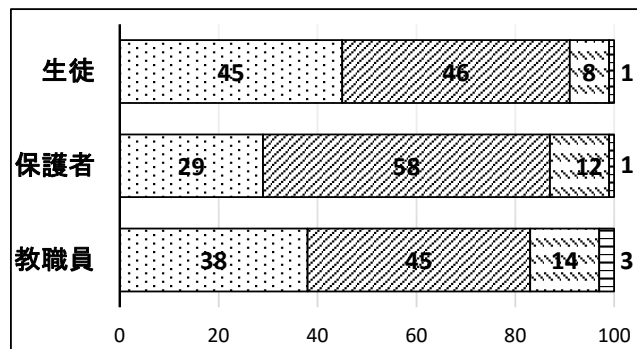
生徒の88%、保護者の87%、教職員の73%が肯定的な評価をしており、どの学級でも思いやり宣言の文言を盛り込んだ学級目標の実現に向けて取り組んでいました。また、今年度も、いじめの未然防止に向けて、全教員による見守り活動や定期的な研修会を実施してきましたが、次年度も引き続きこれらの取組を実施してまいります。今後とも、生徒の自己肯定感の向上や、教員と生徒及び生徒同士の信頼関係づくりに向けて一層努めてまいります。

### ②生徒は様々な場面で「思いやりの心」をもち、みんなの人権を尊重する行動を取っている。



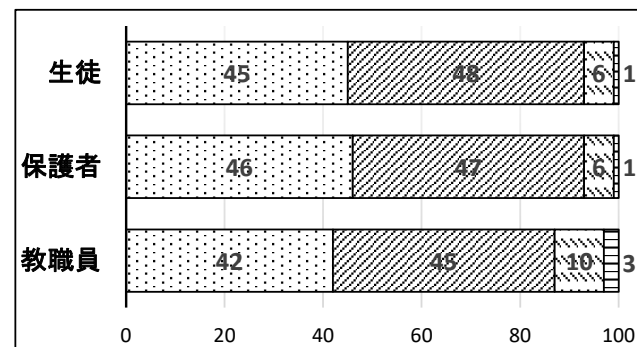
生徒の90%、保護者の92%、教職員の76%が肯定的な評価をしていました。今年度も授業をはじめ全教育活動を通して、人権課題を意識させた取組を行いました。一定の成果を上げたと思います。特に、道徳授業地区公開講座で行った拉致被害者である蓮池薫先生の講演は、生徒の心に響き、人権に対する意識が一層高まったように思います。次年度に向けて、カリキュラム・マネジメントの視点に立って、各教科・領域での学びと人権を意識させた教育活動を一層進めてまいります。

### ③生徒は道徳での学びと、「自他ともに大切に思いやりの心」をつなげながら授業を受けている。



生徒の91%、保護者の87%、教職員の83%が肯定的な評価をしていました。特に、道徳の授業にもカリキュラム・マネジメントの視点を入れて取り組み、各学年では、いじめの防止につながる授業を必ず入れるようにしました。また、いじめの問題だけでなく、拉致問題などの人権課題とも関連させて、生徒の人権感覚や道徳的価値を育てていくことを重点にして取り組んできました。次年度に向け、指導方法や評価方法のさらなる改善を図っていきたいと思います。

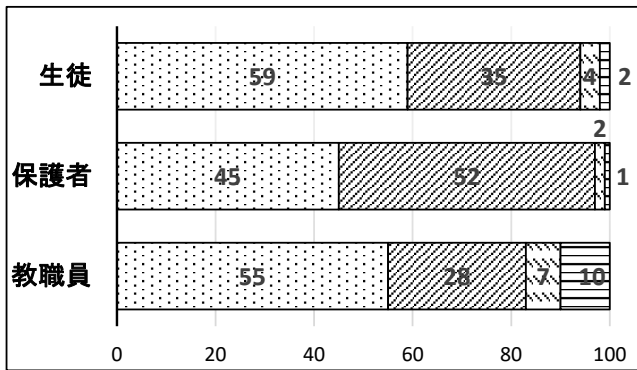
### ④学校は、教室の掲示物や環境美化、清掃活動をきちんと行っている。



生徒の93%、保護者の93%、教職員の87%が肯定的な評価をしており、生徒・保護者ともに肯定的な評価の割合が高い結果となりました。また、年間を通して、校内の環境美化は維持されていたと思います。ただ、学級によっては、時々掲示物がはがれていたり、後ろの棚の上が散らかっていたりすることがあったので、これらの状況についても、意識して改善を図っていくよう、さらなる人権感覚の醸成に努めてまいります。

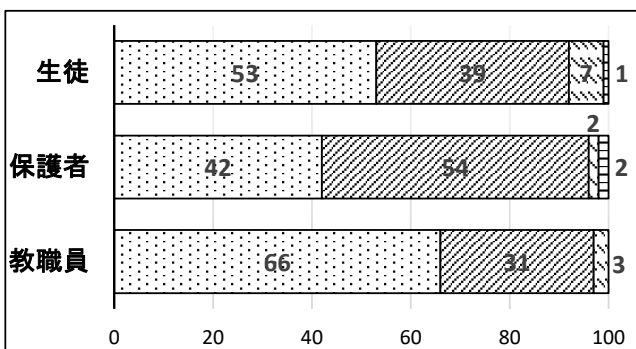
### 3. 生活指導について

#### ①挨拶・時間を守る等の基本的な生活習慣を身に付けるための指導が行われている。



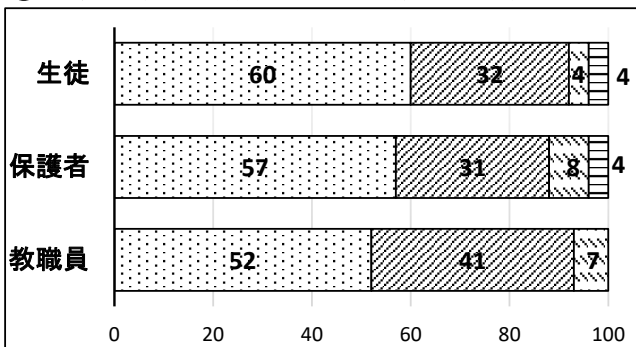
生徒の94%、保護者の97%、教職員の83%が肯定的な評価をしていました。中には、挨拶の声が小さかったり、登校時刻間際に登校する生徒もいましたが、全体的には、基本的な生活習慣を守りながら、落ち着いた学校生活を送っている生徒が多かったように思います。次年度に向けて、教員から一層積極的に挨拶をするようにしたり、生徒には朝余裕をもって登校するよう、保護者と連携を図ったりしながら、それぞれ取り組んでまいりたいと思います。

#### ②感染やけがの防止をはじめ、健康や安全について配慮しながら生活するよう指導が行われている。



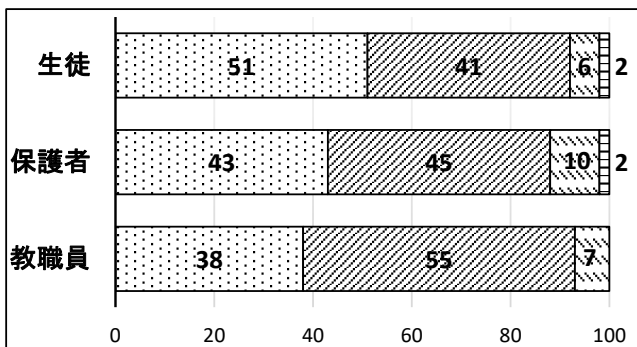
生徒の92%、保護者の96%、教職員の97%が肯定的な評価をしていたとともに、つき指や骨折などのけがの人数も、昨年度より大幅に減少しました。これは、教職員や生徒のけがの防止に向けた意識が高くなった結果であると考えます。次年度も、感染症やけがの防止をはじめ、生活安全、交通安全、災害安全の3つの視点を踏まえた安全指導を、計画的に実施するとともに、指導内容の見直し等も適宜行っていきたいと考えます。

#### ③生徒は、部活動をはじめ委員会活動等に一生懸命取り組んでいる。



生徒の92%、保護者の88%、教職員の93%が肯定的な評価をしていましたが、令和3年度全国学力・学習状況調査の、「将来の夢や目標を持っていますか」の本校における肯定的な評価の割合が60.6%（東京都：66.5%、全国：68.6%）で、東京都及び全国よりも低い結果となりました。生徒たちは、部活動などに一生懸命取り組んでいるのはいるものの、必ずしも将来の夢や目標をもって取り組んでいるとは限らないので、次年度はその点も踏まえて各活動を一層充実させていきたいと考えます。

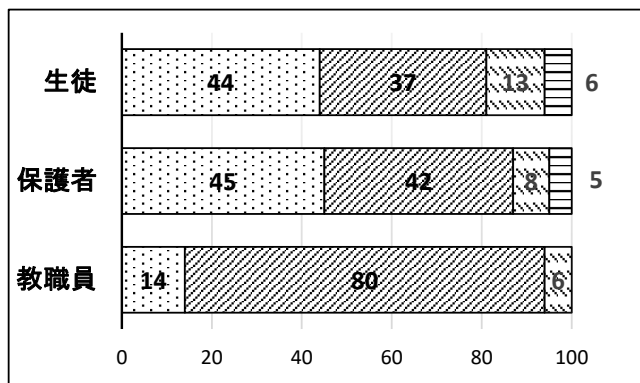
#### ④生徒は運動会や学年の行事に、学級の人と協力しながら、主体的に取り組んでいる。



生徒の92%、保護者の88%、教職員の93%が肯定的な評価をしており、人権教育の内容につなげて、運動会などの行事を実施したことにより、主体的に各行事に取り組む生徒の割合が高くなったと言えます。次年度も、各教科・領域、行事などを、カリキュラム・マネジメントの視点に立ってつなげることにより、その行事を行う意義や必要性などを一層意識させた取組を行っていきたいと考えます。

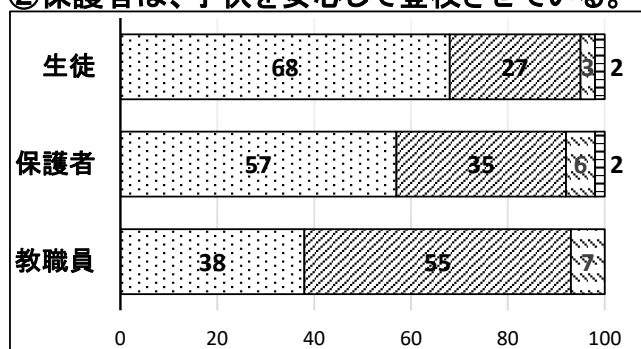
## 4. 教育相談について

### ①生徒は学校に行くことを楽しいと感じている。



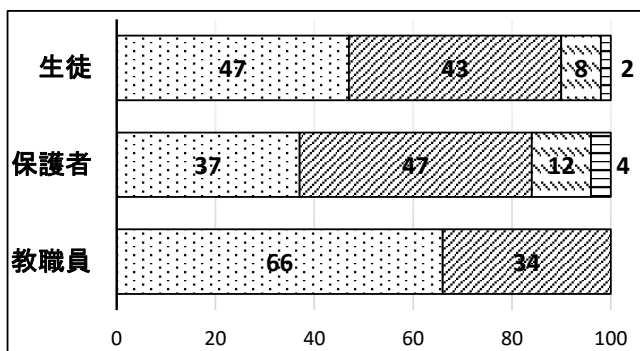
生徒の81%、保護者の87%、教職員の94%が肯定的な評価をしており、各学級で、いじめ等の未然防止に向け、「居場所づくり」や「きずなづくり」につながる学級経営を進めてきたことが、この評価につながったと考えます。次年度に向け、授業や部活動などの全教育活動を通して、生徒が楽しいと感じることができる学校づくりを一層進めていくとともに、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員、関係諸機関との連携を深めて、生徒一人一人に対する支援も一層充実させていきたいと考えます。

### ②保護者は、子供を安心して登校させている。



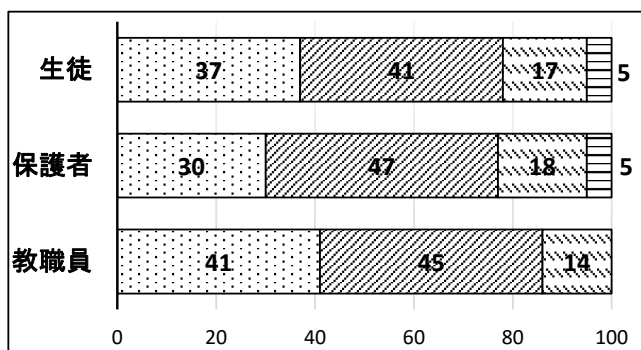
生徒の95%、保護者の92%、教職員の93%が肯定的な評価をしていました。保護者の方からは、「コロナ禍の中ではありますが、運動会や校外学習、さらには音楽と家庭科を組み合わせた授業などを実施していただき、感謝しています」という趣旨のご意見を多数いただきました。「オミクロン株」という新たな変異株が発生し、コロナが終息していない中ではありますが、今後とも、保護者が安心して子供を登校させるための取組を行ってまいります。

### ③教職員は、生徒に対して親身になって接している。



生徒の90%、保護者の84%、教職員の100%が肯定的な評価をしていました。これらの評価は、全教職員が一枚岩になって、生徒への心のケアなど常に生徒の心に寄り添って支援してきた成果であると思います。改めて、次年度も、全教職員が生徒の心に寄り添いながら、人権教育を柱にした学習指導や生活指導を一層充実して行うよう指導してまいります。

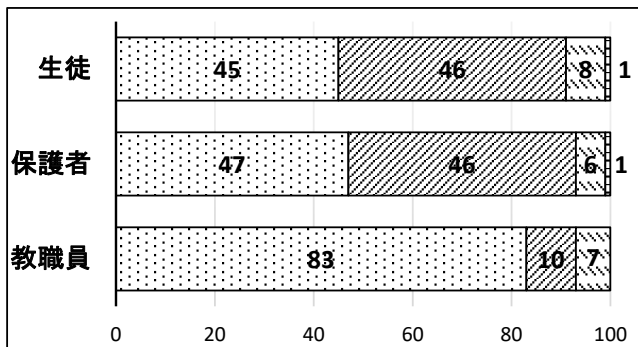
### ④学校は、生徒や保護者が困ったときに安心して相談できる場となっている。



生徒の78%、保護者の77%、教職員の86%が肯定的な評価をしていました。次年度に向けて、生徒や保護者への情報発信をさらに充実させていくとともに、4-①でも述べたように、生活指導や特別支援教育に関わる教育相談活動を、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、心のふれあい相談員、学校生活支援員などとの連携を一層強化しながら進めてまいります。

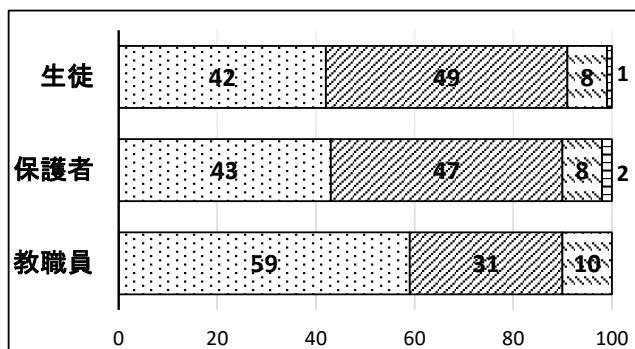
## 5. 学校運営について

### ①学校は、学校だより・学年だより・HP等で経営方針や教育活動を分かりやすく伝えている。



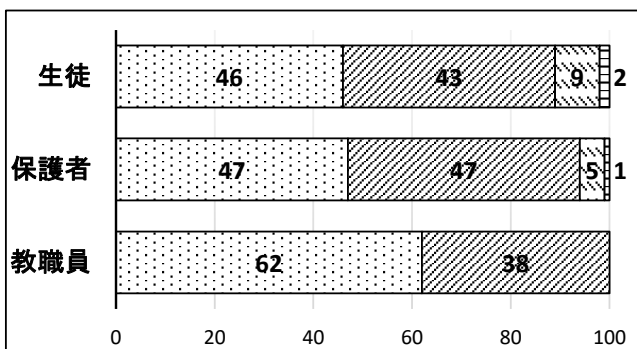
生徒の91%、保護者の93%、教職員の93%が肯定的な評価をしていました。特に今年度は、学校だよりなどの配布物をできる限り見やすく分かりやすい表現で伝えたり、学校連絡メールを活用して、必ず学校ホームページを見ていただくような取組を強化しました。次年度に向けて、学校だより等の紙媒体、学校ホームページ、学校連絡メールを、発信ツールの三位一体としてとらえ、一層適時性ある情報発信に努めていきたいと考えます。

### ②学校は、PTAや保護者との連携を大切にしながら教育活動を進めている。



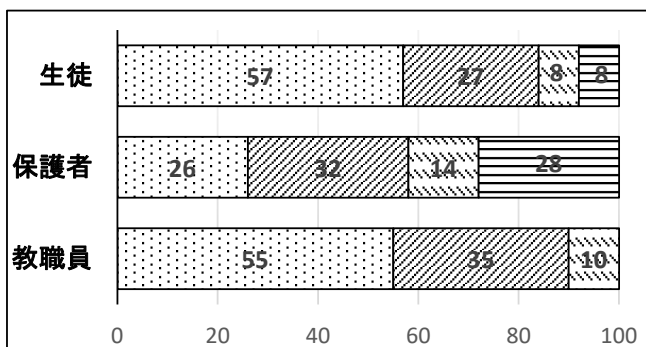
生徒の91%、保護者の90%、教職員の90%が肯定的な評価をしていました。今年度は、道徳授業地区公開講座で、講師、生徒、保護者、教員によるパネルディスカッションを実施したり、学校ホームページにPTA関係の内容を掲載できるようにしたりするなど、新しい取組を行いました。特に、今年度の道徳授業地区公開講座への保護者の参加率は例年以上に高く、講演とともにパネルディスカッションについては、多くの保護者から肯定的な感想をいただきました。次年度も、このような取組を進めていきたいと考えます。

### ③学校は、感染予防(健康観察・手洗い指導など)を適切に行っている。



生徒の89%、保護者の94%、教職員の100%が肯定的な評価をしていました。特に、9月の緊急事態宣言延長のときは、短い期間の中で、後期の教育活動を見直さなければなりませんでしたが、課題は残ったものの、全体的には円滑に進めることができました。ただ、今後は、緊急時とは言え、教育活動を変更するときは、保護者のご理解をいただけるよう、保護者への連絡や説明を一層丁寧に行ってまいります。さらに、今後とも区のガイドラインに則り、適切に感染防止対策を進めてまいります。

### ④学校は、小学校の先生を招いて、研究授業や協議会などを行っている。



生徒の84%、保護者の58%、教職員の90%が肯定的な評価をしていました。南町小、向山小、開進二中の三校では、小中一貫教育の取組として、年3回研究授業や研究協議会を行っています。本校では、今年度の6月に、「自己肯定感を高め、多様性を認め合う生徒の育成」というテーマで、研究授業や協議会などを行いました。しかし、その周知が保護者の方々に十分できていませんでしたので、次年度は、小中一貫教育の取組についても、周知を徹底してまいります。

